

令和 6 年度 長岡京市南地域包括支援センターアクションプラン及び実績報告

南包括目標	アクションプラン(行動計画)	令和 6 年度実施内容	評価	課題・改善点
①高齢者とその家族が、権利や尊厳が守られ、必要な時に必要な支援が受けられている	地域住民が安心して暮らせるように、包括の活動を知ってもらうとともに、支援を行う。 ①民生委員の訪問時同行しパンフレットを渡し顔を合わせることで、気軽に相談できる相談窓口として知ってもらう。（健康フェスタを開催していない地域、未組織地域から中心に回り、3年で全地域を訪問する） ②ケアプラン点検に参加しその人が目指す自立した生活を送れるよう要支援認定者及び総合事業対象者の支援をする。 ③虐待ケースには速やかに対応する。成年後見制度の必要なケースについては長岡京市権利擁護センター等と連携して利用に結びつける。 ④成年後見制度についてスキルアップするために研修や勉強会に参加する。	①R6年6月に未組織地域を民生委員さんと高齢者宅を訪問し、包括の案内をした。フェスタの未来場者について民生委員と情報共有し、支援が必要と思われる方を訪問した。 ②R7年1月と3月にケアプラン点検を実施した。 ③虐待ケースに対して速やかに対応できている。（成年後見制度の申し立て9件） ④R7年1月に成年後見の協議会があり参加予定。	①一人暮らしや高齢者世帯を中心に訪問し、包括が相談窓口であることを知ってもらえた。 ②多職種・他事業所からの意見を出し合うことができた。 ③虐待の件数は年々増加し、複雑化しているため対応が長期にわたり解決が困難なケースが多い。 ④障がい・三士会・病院・税理士など分野を超えて1つの事例についてそれぞれの視点から意見をだしあうことができた。	①民生委員と連携をとり計画的に訪問する。特にあまり地域と関わりが少なく、包括のことを知らない高齢者宅を中心に民生委員さんとアプローチしていきたい。 ②今後のケアプランに反映させたい。 ③虐待を未然に防げるように普段からケアマネジャーや民生委員などと連携をとり早めに相談できる関係作りをする。 ④ファシリテーターとしての能力が勉強・経験不足であると感じた。
②高齢者一人ひとりが、介護予防や認知症についての理解を深めることで、主体的に健康づくりに取り組んでいる	いくつになっても楽しめる地域を目指す。 ⑤地域の老人会やサロン、出張講座を通じて多くの人に介護予防や健康づくりに関心を持ってもらう。（1年間で12回目標。） ⑥毎月なかの邸カフェを開催する。オレンジルームと共同し認知症の方の居場所作りをする。 ⑦認知症ネットワーク会議に参加し情報共有、地域の啓発活動に参加する。認知症になっても住みやすい地域づくりを目指して関係機関と参画する。（必要時）	⑤R6年4月～R7年3月まで16回開催をした。 ⑥今年から新たな取り組みとしてアロマ講座・ハンドマッサージ・腰痛体操・音楽療法・作業療法士による「介護予防のコツ」を共同実施した。（なかの邸） ⑦認知症ネットワーク会議に7回参加した。チームオレンジや本人ミーティングについて意見交換をした。1月には搜索模擬訓練として「地域での見守りの”わ”」1月16日徘徊模擬訓練打ち合わせ。1月17日徘徊模擬訓練実施。市民対象に迷い人への声かけの仕方をロールプレイし、迷い人の気持ちや、声をかける際の注意点を学んだ。	⑤エンディングノートを活用して終活の講座を開催し、今後のことを考えるきっかけとなったと感想があった。市役所主催の神足地区健康フェスタに10月に参加した。 ⑥コンサートに興味がない方にも来ていただき、初めて経験してもらうこともあり、喜んでおられた ⑦会議に参加することにより、関係機関と情報共有ができた。市民と直接考えることで生の声（不安や疑問、体験できてよかった等）を聞くことができた。	⑤出張講座やサロンは依頼があれば随時開催していく。 ⑥誰もが参加しやすい内容や興味のあることを考えていく。 ⑦会議に参加し、市民への認知症についての周知、理解を広げるための活動について、提案・実行していきたい。
③高齢者支援に関わる人等が、それぞれの役割を果たしながら協力できている	高齢者に関わる人たちが抱え込まず情報共有ができていつでも支援できる包括を目指す。 ⑧日頃から密にコミュニケーションをとることで、高齢者に携わる人たちが一人で考え込まずに気軽に相談しやすい関係性を作る。 ⑨毎月地域ケアマネジメント会議を開催し関係機関と情報共有するとともに助言をもらう。 ⑩ケアマネジャーを含む関係者から相談のあったケースについて関係機関に参加を依頼し、多職種と情報共有する。意見交換や助言を受ける中、更なる自立支援、重度化防止ひいては高齢者の生活の質の向上を目指す目的で会議を随時開催する。（地域ケア個別会議）	⑧地域のケアマネジャーや民生委員からの相談に速やかに対応している。高齢者がよく利用する地域の金融機関や店舗にチラシを置いてもらったり挨拶をしたことで、その後店舗から相談を受けている。 ⑨毎月地域ケアマネジメント会議を開催している。 ⑩4/18、7/8、17、11/8、12/12の5回開催した。	⑧相談件数も増えており、ケアマネジャーから相談しやすい包括だというお声をいただいている。 ⑨関係機関と活発な意見交換ができています。 ⑩認知症や視覚障害、精神疾患がある一人暮らしの高齢者について多職種に参加してもらい情報共有し支援方針について検討した。	⑧包括の案内をする店舗を今後もさらに増やし周知することで気軽に相談しやすい関係を築く。 ⑨会議の内容に応じて多職種に参加してもらう。 ⑩これらのケースから今後地域課題を見つけていく。
④地域に暮らす一人ひとりが、お互いに支え合っている	住民が主体となり、関係機関や地域が見守り支えあう地域づくりを目指す。 ⑪地域ケアマネジメント会議や地域ケア個別会議から共通課題を抽出して関係機関や地域住民と情報共有や検討する地域ケア推進会議を開催する。（年2回） ⑫毎月民生委員の定例会に出席し、お互いの活動を知る。また、地域の高齢者について情報共有する。 ⑬担当地域の地域密着型サービス運営推進会議に参加して情報共有する。（5ヶ所） ⑭西光寺の取り組みに参加し子どもから高齢者までの居場所作りに協力する。（年6回程度） ⑮おでかけあんしん見守り事業の啓発活動を行う。	⑪2/27地域ケア推進会議を実施した。 ⑫毎月民生委員会の定例会に出席している。包括の活動を知ってもらうため、6、7月に「地域包括支援センターとは」という講座を民生委員対象に行った。 ⑬地域密着型サービス運営推進会議に20回参加した。 ⑭6月に西光寺で健康講座を行い11名が参加、11月に秋祭りを行い雨にも関わらず多くの親子が参加された。2月・3月西光寺実行委員会に参加した。 ⑮おでかけあんしん見守り事業について5件案内した。	⑪安心できる地域づくりを目指して、共通課題として 認知症 あれ？っと早めに気づく関係づくり・ネットワーク作りができた。意見抽出により『早めの相談7か条』を作成した。 ⑫講座のあと、グループワークや質疑応答を通してお互いの活動内容について話し合えた。その後民生委員から相談を受けるなど相談しやすい関係作りにつながった。 ⑬地域密着型サービスの取り組み内容について情報共有できた。（1事業所が増えた） ⑭未組織地域からも新たに参加された。 ⑮事業の必要な方に対して案内できた。	⑪地域ケア個別会議を開催することにより地域課題を抽出し地域ケア推進会議につなげていく。 ⑫民生委員と情報共有に努める。 ⑬継続して会議に出席する。 ⑭関係者とともに広報活動を積極的にして新たな参加者を増やしていく。 ⑮必要な利用者に対して啓発活動を行う。